

北浜チャーチ創立21周年感謝礼拝

2019年6月9日（日）

主 題：「でも、してみましよう」

ーペンテコステの祝福ー

テキスト：ルカ福音書5章1－5節

はじめに

- ・本日、私たちは大変感謝なことに三重の「喜びの日」を迎えています。
三重の「喜びの日」とは；
 - ① 私たちの北浜チャーチは、「創立21周年」を迎えた記念すべき日であることです。
 - ② 今日は今年の教会暦で、「聖霊降臨日」（ペンテコステ）であることです。そしてさらに、その上に
 - ③ 今日は洗礼式（バプテスマ式）があることです。今回は7名の方々がこれから、イエス・キリストを信じた証しとして、水のバプテスマを受けられます。
- ・ですから、私たちはこの日を特別に「喜びの日」として、神に大いに感謝し、礼拝をお捧げしたく思います。

- ・さて、私たちは「喜びの日」を迎えていますが、私たちの住む社会はどうでしょうか。

{例 話}

- ・令和という新しい時代に入りましたが、先日読売新聞が平成時代を振り返り、平成時代の30年間、新聞紙上に出た「人生相談コーナー」の質問を整理し発表しました。すると最も多い相談は、「突然キレること」など、内面に不安を抱える相談が相次いでいたことが分かりました。
- ・平成の30年間、人の心はどんな状態であったのでしょうか。次は問い合わせがあった幾つかの例であります。
 - <高校3年の女子>。私はささいなことでキレ出すと、歯止めが利きません。言葉使いが乱暴になり、両親に暴力を振るってしまいます。しばらくすると正気になりますが、自己嫌悪に陥るのです。どうしたら良いのでしょうか。
 - <10代の接客業の女性>。中高年のキレやすい客には「何か言われたら、とりあえず謝れ」と言われますが、どうも納得がいきません。
 - <30代主婦>は、夫が怒り出すと手がつけられません。身内には愛想がよく、暴力もありませんが、本当に困っています。どうしたら良いのでしょうか。
- 「キレる」といえば、若者を指すことが多かったですが、最近は次第に中高年にも目立つようになりました。長寿に伴う老後への不安や、働きつづけることでのストレスが影響していると言われます。
- <62歳男性>。退職後、関連会社へ再就職。短気になり困っています。若手の横暴な態度が気になり、カッとなって発言してしまいます。文句ばかりいう人間と見られている

ようです。どうしたら良いでしょうか。

- ・その他、不安をかかえる相談が多くあったそうです。

これらの問いに対して、専門家（精神医学）は次のように答えています。

「社会では企業での法令厳守など、社会全体が厳格になってきた。人々は常にプレッシャーを感じ、他の人もきちんとしていないと許せなくなっている。受け入れられない疎外感を抱えている場合が多い。現代は、ゆとりがなくなっている。」

- ・確かに社会は高度に発展しました。しかし内面に不安を抱く人々は多くいます。私たちはそのような時代、どのように生きたらよいでしょうか・・・。

今日は第一にイエスの愛弟子シモン・ペテロの人生から、第二に今日のペンテコステ時代のクリスチャンの生き方について考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. シモン・ペテロの生き方 ルカ福音書5章

5:4 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。

5:5 するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」

- ・漁師が一晩中働いて、何も取れなかったことはマレでしょう。しかし、この時は、なんの収穫もありませんでした。イエスは、今一度網をおろしてみなさいと言われました。シモン（後にペテロ）は、イエスの言われるとおりに網をおろしました。すると、

5:6 **そして、そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。**

奇跡が起こりました！ シモンは、この時から網を捨ててイエスに従い弟子となりました。シモンはイエスとの出会いによって、人生が大きく変えられました。シモンの人生を変えたイエスとは、いったいどんなお方でしょうか？

私たちは何を学ぶことができるのでしょうか？ 3点

1) **すべては神の御手の中にある**

- ・人生には、不可解な出来事が多々あります。どうして、そうなるか不明なこと、理不尽なことがあります。しかし、神は全てをご支配されるお方であることを、覚えたいと思います。

5:3 **イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟にのり、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。**

- ・大切なことは、世界を創造された神の御子が、ガリラヤ湖畔の一漁師に舟を貸してくれ、沖へ漕ぎだしてくれと頼まれたことに注目してください。何ということでしょうか。シモンはそれに応答し、答えて従いました。もし彼が従わなかったならば、その後のストーリーはありません。ある方が、「**神は私たちの人生において、神の方から身を低くして頼まれるように近づいてくださることがある**」と言いました。その時私たちは、いったいどういう応答をするのでしょうか。次にイエスは；

5:4 シモンに、「**深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。**」と言われた。

この聖句の原文は命令形です。「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」

と命じられました。シモンは従順に従った結果、たくさんの魚をとり、網は破れそうになりました。

- ここに、私たちは大切な原則を見ることができます。シモンはまずイエスのおことばに「従順」であったことです。それゆえ、
⇒ 大量の魚が取れるという「祝福」（結果）が伴いました。

2) 人間的能力に頼る必要はない

5:5 シモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」

- 漁師であった彼は、ここで自分の経験をもってきました。それは、誤りであったでしょうか？ 人は自分の経験、自分の能力、自分の才能に基準をおくものです。誤りでしょうか・・・？ いいえ、もし私がおの場にいたなら、私もシモンと同じように言うに違いありません。クリスチャンも、自分の能力・才能に従い判断することがあります。
- では、いったい何が問題でしょうか？
⇒ それはイエスがおの場におられるのに（臨在）、シモンは自分の経験を持ちだすことは不要であったことです。主が臨在される場所、そこは神の国が実現する場所です。
- どうぞ、誤解しないでいただきたい。人間的経験は不要と、言っているのではありません。神は人の能力・才能を用いられます。しかし、それよりも大切なことは従順な器を通し、神は栄光を現すお方であることです。
- ここに私たちが、覚えなければならないことがあります。
人間的経験、能力、才能も確かに大切ですが、さらに大切なことは、主がここに居てくださるならば、主がお語りくださるならば、みことばに従順であることです。

{例 話}

- 北浜チャーチは、おそらく日本に類のない教会であると思います。
なぜなら、いろいろな背景をもつ信仰の友が集まり、「開放性」と「個人を尊重する」群れであるからです。教会には種々の賜物、才能、能力に恵まれた方々がいます。
- そもそも北浜チャーチは、1990年私の「ビジネス講演会」からスタートしました（詳細は記念誌参照）。そして教会は、大阪都心の「センター・チャーチ」としての務めを果たし、最近「ローカル・チャーチ」にシフトしつつあります。
- 黒田の海外宣教の働きも、「ミッション・宣教の声」を通して既に37年以上も続いてきました。教会内外から、多くの方々の祈りと支援をいただけてきました。国内に、そして国外に向かい歩んできた教会です。
私は、①ビジネスマン伝道、②海外宣教、③教会建設！
⇒ 3本柱でやってきました。これは人間の力、能力ではないこと明らかです。
- 教会で、誰が、何をしたという人間的なものではありません。まさしく神が始め、神が建てられた群れです。そこには確かに主が臨在されたことは疑いありません。

小さなペンテコステのわざが起こった群れです。ですから、私たちは人間的な能力や力を誇るのではありません。

ただ主だけを賛美し、感謝し、礼拝する教会です。

- ・もう一点学ぶことができます。

3) 「でも、という信仰」

5:5 するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」

- ・シモンは、「でも」と言いました。この言葉は「しかし」という言葉です。やや迷いが見られ、あるいは疑いもみられますが、それでも・・・という表現です。つまりシモンは、この時「でも」、という信仰でした。
- ・彼は「おことばどおり」と言いました。

⇒ 原語では、on your word (英語) auf Dein Wort (独語)

シモンは、イエスの命じられたお言葉の上に信頼の網をおろしました。

⇒ それが「信仰」です

彼は、このように「でも」と言いました。そしてイエスのみことばの上に、信頼の網を投げ、従順な行動に出ると、祝福がともないました。ここに神の祝福の原則をみることができます。

{例 話} 「でも、という信仰ステップ」

1998年に教会は誕生し、3年後に北浜のVIP関西センターへ引越してきました。今振り返れば、それは「神のわざ」でした。記録をひもどいてみましたら、次のことが分かりました。

2002年1月27日 全体集会を開く、

2002年2月23日 VIP関西センターへ引越す

必要経費(引越し、改装、備品等): 約1,200万円

- ・不思議なことに、必要経費は借金することなく全て与えられました！
感謝！！ 兄弟姉妹がどれほど主を愛していたかの証しでしょう。正直言って、人間的に考えれば、「でも、してみましよう」という信仰でした。しかし、神はそれでも応答くださいました！！ ハレルヤ！
- ・さらに私が驚いたことは、黒田個人の「祈りの手帳」(引越し前のまだ少人数の時)には、「ビジネス街の中心地北浜に、200人収容の会堂を！」と書いてあり、祈っていたことです。確かに実現しました。 ハレルヤ！

- ・皆さん。「でも、網をおろしてみましよう」という信仰で、従順に従ったとき、主は祝福くださいました。私たち北浜チャーチは、今後も初心を忘れず、主を信頼していきたいと願います。シモンは、イエスに対し「でも、網をおろしてみましよう。」と言い、従いました。すると大漁の祝福を得ました。

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」と言った。

その時、彼はイエスがどんなお方か分かりました。

⇒ これが生ける主に出会った人（自分の姿が分かる）

- ・今日、もう一点お話ししたいことがあります。

2. 聖徒たちへの祝福

1) 聖霊降臨

- ・今日は、ペンテコステ（五旬節）という祭日です。その時、何が起こったのでしょうか。聖書は詳細に記録しています。 **使徒の働き 2章**
- 2:1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。
- 2:2 すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。
- 2:3 また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。
- 2:4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。
- ・聖霊は、神を信じていた人たちの上に注がれました。この日は、教会の始まりの日です。イエスは聖霊降臨前に、次のように言われました。 **使徒の働き**
- 1:4 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。
- そして、こう言われました。 **使徒 1章**
- 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」
- 彼らは聖霊を受けて、キリストの福音を携えて各地へ伝道に行きました。
- ・これはイエスが言われたことばの成就です
- わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。
- ヨハネ14:16

2) 聖霊降臨のしるし

聖霊降臨の際には、三つのしるしが伴いました。

- ① 「激しい風が吹いてくるような響きが起こり」（2節）。最初のしるしは、耳に聞こえるものでした。だれにでも分かるものでした。
- ② 「炎のような分かれた舌が現れた」（3節）。次に目で見ることができたものでした。
- ③ 「御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話し出した」（4節）。第三のしるしは、自分たちが知らないことばで神のわざを語りだしたことでした。福音は言葉、言語によって伝えられるものです。福音はエルサレム、ユダヤというユダヤ人居住地域を越えて、異邦人の地サマリヤにまで届くと主は言われました。すなわち福音は全世界へ届きます。これは神のマスタープランです。

* 聖霊降臨の三つのしるしは、とても意義が深いものです。

3) 聖霊降臨の目的

- ところで、なぜ神は聖霊を送られたのでしょうか。イエスは言われました。
しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。 ヨハネ14:26
- 聖霊が来られた目的は、「助け主」として私たちを助けるためです。
ペンテコステは教会の始まりであります。不安を神にゆだねることの始まりでもあります。今の時代、教会も、個人も、不安があります。ゆとりがない、キレてしまいやすい、ストレスが蓄積してしまいやすい時代です。
⇒ それが今の時代です。
- 皆さん。北浜チャーチは創立21周年を迎え、教会も個人も、そして今日受洗される方々にも、新しいことが始まろうとしています。新しいことがはじまる時、なにかにぶつかります。聖霊はそのために横に居てください、もう一人の「助け主」として、スタンバイしてくださっています。今日は、不安を神に委ねることの始まりの日です。イエスは言われました。

14:1 あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

ヨハネ

- 信仰とは神の約束を信じ、住み慣れた所を出て行くことです。そして約束を待つことです。いかがでしょうか。シモン・ペテロのように、「でも、してみましょう」と言って、神のみことばを信頼し、一步踏み出そうではありませんか。シモン・ペテロの時代、聖霊はまだ注がれてはいませんでした。しかし今は、すでに聖霊が注がれて、「恵みの日」、「救いの日」を迎えています。なんとという幸いではありませんか。

ま と め

主 題：「でも、してみましょう」

—ペンテコステの祝福—

- 今日、私たちは3重の祝福に与っています。感謝！
① KIBC 創立21周年日、②ペンテコステ礼拝日、③7名の方がたの洗礼日
私たちはどんな心構えで歩むべきでしょうか。天父神は、もうひとりの「助け主」を送ってくださいました。聖霊なるお方は、助け主、慰め主であります。感謝！
- 私たちの信仰、それは「でも、してみましょう」で十分です。
最後に今日の聖句を、ご一緒にお読みしましょう。 **ルカ福音書**
5:5 するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましょう。」

* God bless you!